

2019年10月20日

## 福音書からのメッセージ

イエスは、気を落とさずに絶えず祈らなければならないことを教えるために、弟子たちにたとえを話された。

(ルカによる福音書 18章1節)

先週から今週にかけて、東日本を中心に襲った台風19号の被害状況が明らかになってきました。多くの河川が氾濫し、家は流され、道路や線路は寸断され、そして80名近くの方々が犠牲になりました。今も多くの方が避難所や、屋根が飛ばされ泥のおいが立ち込めた家で生活をされています。水や食料は足りているのだろうか。寒くなってきたけれども、あたたかい服はあるのだろうか。わたしたちには何が出来るのだろうか。一緒に考えていきたいと思えます。

「なすすべがない」というどうしようもない状況をあらわす言葉があります。自然災害のときに、また家族のことやご自身のこと。わたしたちは様々なことで心を痛め、なすすべがなくなってしまう。今日の福音は、今、そのように感じている人に対して、語られているのかもしれない。

イエス様の語ったたとえに登場するのは、やもめと裁判官です。聖書に出てくるやもめというのは、夫を失った女性のことを指します。子どもがいれば、やもめの生活も何とかなっていたかもしれませんが、子どもがいない場合、彼女の面倒を見てくれる人はいないに等しかったようです。このやもめが一人の裁判官に訴えます。「相手を裁いて、わたしを守ってください」。何が起こったのかは詳しく書かれていません。しかし彼女はなすすべがない状況で、必死に訴えたのでしょう。

ところがその裁判官は、神を畏れず、人を人とも思わない人でした。彼は最初、やもめの訴えを取り合おうとはしませんで



した。しかし何度もしつこく、ひっきりなしに裁判官のところに行って訴えるやもめの姿に、裁判官は根負けして裁判をすることにします。それはやもめの言い分が正しいことに気づいたからでも、やもめを助けてやりた

いと思ったからでもありませんでした。

「うるさくてかなわない」というのがその理由だったのです。

イエス様はこのたとえを、気を落とさずに絶えず祈るよという思いを込めて語られます。この言葉は今、「なすすべがない」思いを持って立ち尽くしているわたしたちの元にも届いています。わたしたちに必要なのは何なのでしょう。それは昼も夜も叫び求めることです。「神さま、何とかしてください」、しつこく、執拗に、ひっきりなしに祈り求める。その祈りの姿勢を、イエス様は良しとされる。あなたがたはそのように祈りなさいと命じておられるのです。

不正な裁判官ですら、やもめの訴えに耳を傾けました。では神さまはどうでしょうか。裁判官にとって、やもめはどうでもよい存在でした。では神さまにとって、わたしたちはどのような存在なのでしょう。

神さまはわたしたちをほうってはおかれませんが、祈りは必ず聞かれます。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>